



夕刊 第十六月六日 發行 昭和九年十月七日

詩壇 紀念短歌會素描

吉田 儼

「揚枝とる手も人馴れて我しんみりとした歌をさしし...」

新歌壇

久満夫 選

「思ひ」 鈴木 露 葉

彼等の死

前田勝江

「それと同じ様に...」

山の怪秘

浪木 真書

戸隠から飯綱山の裏手を...」

新妻

久満夫 選

「思ひ」 鈴木 露 葉

彼等の死

前田勝江

「それと同じ様に...」

山の怪秘

浪木 真書

戸隠から飯綱山の裏手を...」



山の怪秘 (浪木真書)

別れ難く暮しし人の上京... 潮聲 静抄帳... 戸隠から飯綱山の裏手を...

草津の湯が近い... 若き旅人一人、スタク... 大だぶさ、黒三つ紋羽二...

吉田眼科病院... 秋の帽子は... 中野洋品店

開業御披露奉仕... 松富... 耳鼻科専門... 山内醫院

磐城共済病院... 内科、外科、小児科、婦人科、皮膚泌尿科、耳鼻咽喉科、花柳病科、X光線科、衛生試験局

吉田眼科病院... 秋の帽子は... 中野洋品店

機関銃印の自轉車... フタバ商會... 西村屋藥局

斯界の權威 クロードネオン... 日東商會

毛糸編物講習會... 大日本編物研究會

明年度發送調節案に 中小炭鑛の被る痛手 反對の猛運動開始か

石炭聯合會では来る廿七日紛糾免れずと見られてゐる。秋に於いて復活増産せしめ、明年度發送調節案に各社出資を強化する。下半月二、三十萬トンの需要に於ける發送高を決定する。不確定な増産は困難なものでないか。合決定の件。一、今秋に於ける百萬噸増産の可否。二、秋に於ける百萬噸増産の可否。三、秋に於ける百萬噸増産の可否。

各指定村舉つて 經濟更生を強調

今日六日の更生計劃記念日に、目下猛練習中である。百一十、二百、三百、四百、五百、六百、七百、八百、九百、千。今日六日の更生計劃記念日に、目下猛練習中である。百一十、二百、三百、四百、五百、六百、七百、八百、九百、千。

復た米の値上げ

去日二十七日米穀商組合では白米一石に就き各五厘の値上を發表し大正七年の米穀相場と同値の上。去日二十七日米穀商組合では白米一石に就き各五厘の値上を發表し大正七年の米穀相場と同値の上。

磐女旗優勝出場選手決定

陸上運動會近づく。磐女旗優勝出場選手決定。陸上運動會近づく。磐女旗優勝出場選手決定。陸上運動會近づく。磐女旗優勝出場選手決定。

第三の運動會は 飽く迄快晴を待つ

決行の際には花火で合圖。第三の運動會は、飽く迄快晴を待つ。決行の際には花火で合圖。第三の運動會は、飽く迄快晴を待つ。

大新聞代表有志が 東京四社會を創設

親睦と報道の公正を期す。大新聞代表有志が、東京四社會を創設。親睦と報道の公正を期す。大新聞代表有志が、東京四社會を創設。

米價の昂騰に伴れ 勞銀を殖やす

夏井川改修入夫喜ぶ。米價の昂騰に伴れ、勞銀を殖やす。夏井川改修入夫喜ぶ。米價の昂騰に伴れ、勞銀を殖やす。

下水に光る帶留め

目先の小慾に眼が眩んで。下水に光る帶留め。目先の小慾に眼が眩んで。下水に光る帶留め。

前借小千兩の藝妓 救世軍へ飛込む

八月上旬逃走。前借小千兩の藝妓、救世軍へ飛込む。八月上旬逃走。前借小千兩の藝妓、救世軍へ飛込む。

平局の書狀洪水

一日平均引受配達數。平局の書狀洪水。一日平均引受配達數。平局の書狀洪水。

自轉車ノ月賦販賣

御通知次第御伺ひ致シマス。自轉車ノ月賦販賣。御通知次第御伺ひ致シマス。自轉車ノ月賦販賣。

自轉車ノ月賦販賣

御通知次第御伺ひ致シマス。自轉車ノ月賦販賣。御通知次第御伺ひ致シマス。自轉車ノ月賦販賣。

自轉車ノ月賦販賣

御通知次第御伺ひ致シマス。自轉車ノ月賦販賣。御通知次第御伺ひ致シマス。自轉車ノ月賦販賣。

自轉車ノ月賦販賣

御通知次第御伺ひ致シマス。自轉車ノ月賦販賣。御通知次第御伺ひ致シマス。自轉車ノ月賦販賣。

自轉車ノ月賦販賣

御通知次第御伺ひ致シマス。自轉車ノ月賦販賣。御通知次第御伺ひ致シマス。自轉車ノ月賦販賣。

自轉車ノ月賦販賣

御通知次第御伺ひ致シマス。自轉車ノ月賦販賣。御通知次第御伺ひ致シマス。自轉車ノ月賦販賣。

自轉車ノ月賦販賣

御通知次第御伺ひ致シマス。自轉車ノ月賦販賣。御通知次第御伺ひ致シマス。自轉車ノ月賦販賣。

自轉車ノ月賦販賣

自轉車ノ月賦販賣

自轉車ノ月賦販賣

自轉車ノ月賦販賣

自轉車ノ月賦販賣

自轉車ノ月賦販賣